

いのちを支える自殺対策に関するアンケート 結果

実施期間：令和5年9月6日～9月27日

対象者：

対象者区分	配布数	調査方法
市内在住の18歳～69歳の市民	無作為抽出 500名	郵送配布・WEBアンケート
市内在住の70歳以上の市民	無作為抽出 200名	郵送配布・郵送回収

回収率：

対象者区分	配布数	回収数	回収率
市内在住の18歳～69歳の市民	500	100	20.0%
市内在住の70歳以上の市民	200	119	59.5%
合計	700	219	31.3%

アンケート集計

回答者について（年齢別の性別・家族構成・職業）

年齢	男性	女性	合計
10歳代・20歳代	4	11	15
30歳代	4	12	16
40歳代	7	16	23
50歳代	11	18	29
60歳代	6	10	16
70歳代	28	36	64
80歳代	16	24	40
無回答	8	8	16
合計	84	135	219

家族構成	男性	女性	合計
1. ひとり暮らし	12	23	35
2. 配偶者のみ	36	34	70
3. 親と子	33	69	102
4. 祖父母と親と子	0	3	3
5. その他	2	5	7
無回答	1	1	2

ご職業	男性	女性	合計
1. 自営業	7	7	14
2. 会社員・公務員等の常勤	27	22	49
3. 契約社員、パートタイマー、アルバイト	5	28	33
4. 主婦・主夫	3	36	39
5. 家事手伝い	1	1	2
6. 無職	36	29	65
7. 学生	3	4	7
8. その他	1	3	4
無回答	1	5	6

問 いま（1か月の間に）、日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスなどがありましたか。（○は1つ）

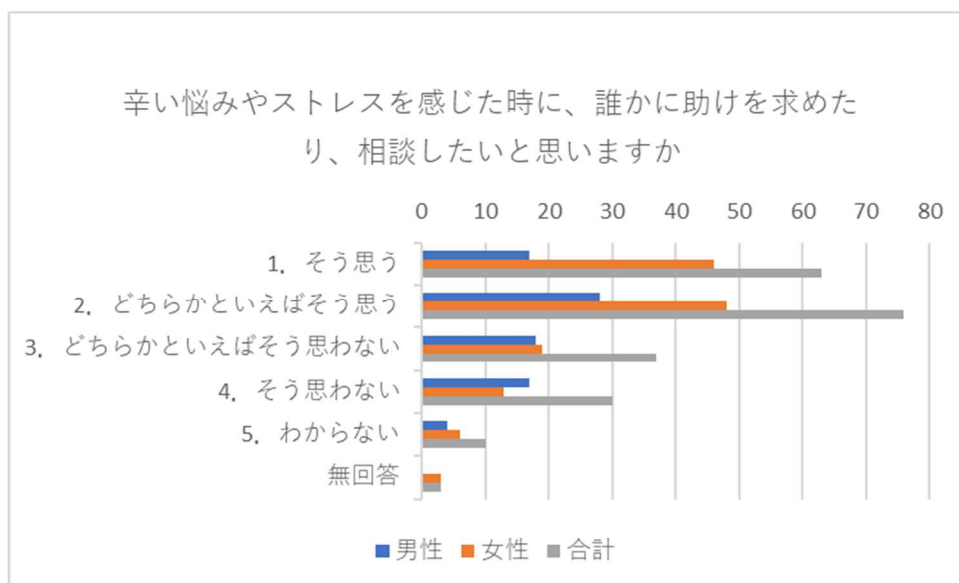
	男性	女性	合計
1. 大いにあった	13	22	35
2. 多少あった	31	53	84
3. あまりなかった	23	36	59
4. まったくなかった	17	20	37
無回答	0	4	4

問 前問で「1. 大いにあった」「2. 多少あった」「3. あまりなかった」を選択された方にお聞きします。
それはどのような事柄が原因ですか。（○は複数回答可）

	男性	女性	合計
1. 家庭問題	22	35	57
2. 健康問題	25	53	78
3. 勤務問題	16	28	44
4. 経済・生活問題	14	22	36
5. 男女問題	0	5	5
6. 学校問題	2	4	6
7. その他	12	17	29
無回答	1	4	5

問 あなたは辛い悩みやストレスを感じた時に、誰かに助けを求めたり、相談したいと思いませんか。
（○は1つ）

	男性	女性	合計
1. そう思う	17	46	63
2. どちらかといえばそう思う	28	48	76
3. どちらかといえばそう思わない	18	19	37
4. そう思わない	17	13	30
5. わからない	4	6	10
無回答	0	3	3



問 前問で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」を選択された方にお聞きします。
相談したいと思わない理由は何ですか。(○は複数回答可)

	男性	女性	合計
1. 相談する人がいないから	2	5	7
2. 相談しても解決しないから	17	13	30
3. 悩みやストレスは自分の力もしくは、 時間が経つことで解決したいから	17	18	35
4. 悩みやストレスがないから	5	1	6
5. その他	5	1	6
無回答	0	2	2

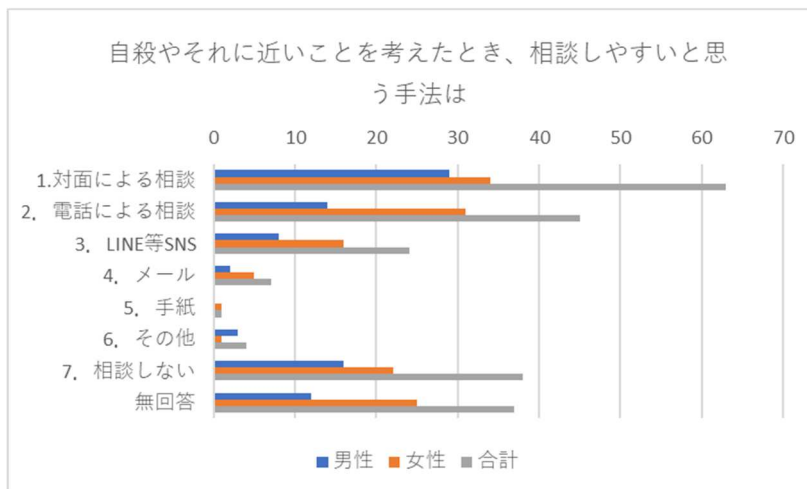
問 あなたが、以下の悩みや困りごとに直面したときに、相談先を知っていますか。
相談先を知っている場合には「1.知っている」、知らない場合には「2.知らない」
に○をつけてください。

	男性			女性			合計		
	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答
a. 悩みやこころの辛さを誰かに聞いてもらいたいとき	29	55	0	60	70	4	89	125	4
b. 金銭的に苦しくなり、生活に困窮したとき	32	50	2	54	73	7	86	123	9
c. 病気やけが、自己都合などの理由で仕事や職を失ったときや働きたくても働けない状況などになったとき	33	45	6	46	69	19	79	114	25
d. 長時間労働、ハラスメントなど職場での勤務問題で困りごとが起こったとき	35	39	10	45	67	22	80	106	32
e. 介護や高齢者の生活全般で困りごとがあったとき	41	39	4	59	64	11	100	103	15
f. 障がいに関する事で困りごとがあったとき	31	45	8	42	75	17	73	120	25
g. 子ども(またはその保護者)がいじめ、不登校、非行・学校問題・友人関係などで悩みを抱えているとき	25	45	11	39	75	20	64	120	31
h. 自営業・会社経営などに関する問題で困りごとがあったとき	24	49	11	21	94	19	45	143	30
i. 女性の家庭・職場に関する悩みや出産・育児後の再チャレンジなどについての困りごとがあったとき	13	57	14	28	85	21	41	142	35

問 仮にあなたが自殺、またはそれに近いことを考えたとき、相談しやすいと思う手法をお選びください。

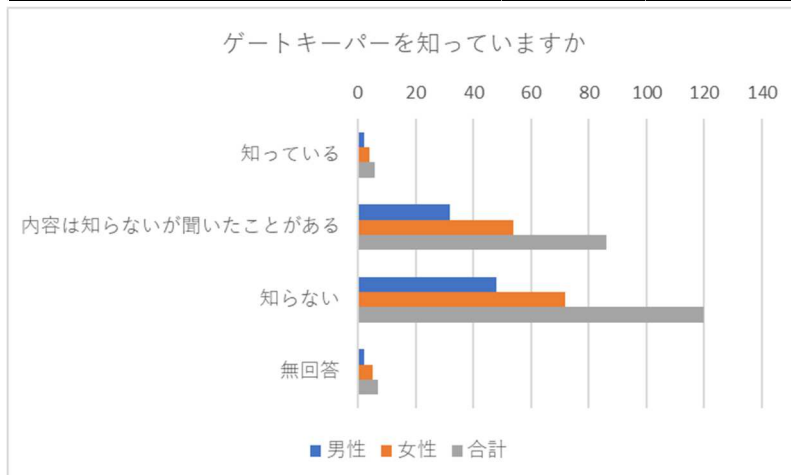
(○は1つ)

	男性	女性	合計
1.対面による相談	29	34	63
2. 電話による相談	14	31	45
3. LINE等SNS	8	16	24
4. メール	2	5	7
5. 手紙	0	1	1
6. その他	3	1	4
7. 相談しない	16	22	38
無回答	12	25	37



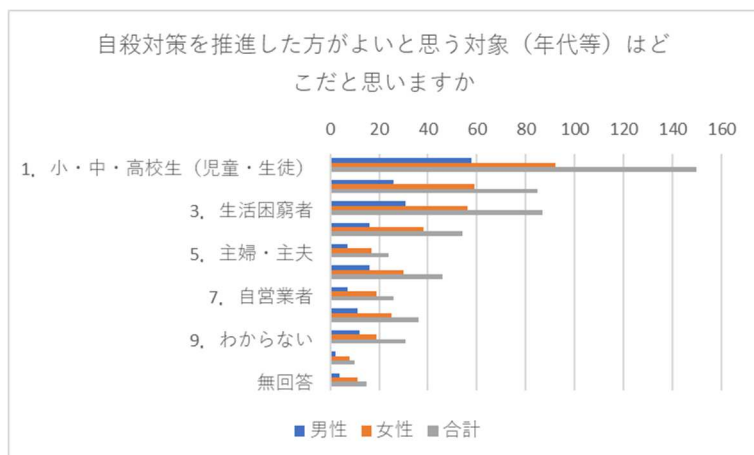
問 自殺のサインに気づき、適切な対応を取れる人のことを「ゲートキーパー」と呼んでいますが、知っていますか。(○は1つ)

	男性	女性	合計
知っている	2	4	6
内容は知らないが聞いたことがある	32	54	86
知らない	48	72	120
無回答	2	5	7



問 自殺対策を推進した方がよいと思う対象（年代等）はどこだと考えますか。（○は複数回答可）

	男性	女性	合計
1. 小・中・高校生(児童・生徒)	58	92	150
2. 大学生(主に20代前半の若年者層)	26	59	85
3. 生活困窮者	31	56	87
4. 企業等で働く人	16	38	54
5. 主婦・主夫	7	17	24
6. 高齢者(65歳以上の人)	16	30	46
7. 自営業者	7	19	26
8. 無職者	11	25	36
9. わからない	12	19	31
10. その他	2	8	10
無回答	4	11	15



問 今後求められるものとして、どのような自殺対策が必要になると思いますか。

以下の中で当てはまるものすべてに○をつけてください。(○は複数回答可)

	男性	女性	合計
1. 地域のコミュニティを通じた見守り、支え合いなどネットワークの強化	49	82	131
2. 自殺予防に関する情報提供など市民への啓発と周知の推進	27	48	75
3. 自殺対策を支える人材の育成と様々な悩みに対応した相談窓口の充実	34	53	87
4. 生活困窮者・無職者、失業者等に対する相談支援や職業的自立へ向けた弱者支援	36	61	97
5. 子ども・若者の自殺予防(いじめ対策、児童生徒のSOSの出し方に関する教育等)	33	43	76
6. 子育てや日常生活、社会などにおいて、困難な課題を抱える女性への支援	26	32	58
7. 職場のメンタルヘルス、長時間労働の是正などの勤務・経営対策の推進	18	19	37
8. 高齢者のうつ予防や要介護者に対する支援、社会参加と孤独・孤立の予防	36	50	86
9. 自殺未遂者の支援(医療と地域の連携による再度の自殺企図を防ぐための取組)	7	14	21
10. 自死遺族支援(自死への偏見による遺族の孤立化の防止や遺族の心を支えるケアなど遺された人への支援)(注意)「自殺」は遺されたご家族に深いこころの傷を残します。その心情に配慮し「自死遺族」という言葉を使っています。	11	20	31
11その他	4	8	12
無回答	2	8	10

その他(ご意見・ご要望があれば記入ください)

- ・地域のコミュニティの敷居が高く、親近感が湧きません。上から目線に感じられ、信頼できない。
- ・ゲートキーパーの心強い支えは、支援の仕方を身近に学ぶシステムが必要だと考えます。
- ・子どもや若い世代の自殺率の高い原因に自分の存在価値、自己肯定感の低さが起因していると思います。学力重点の教育に問題があるのでは。
- ・共生社会を作る努力を。
- ・このアンケートを通して市が力を入れていることを知りました。たくさんの市民に知ってもらうことが大切だと思います。
- ・これから多くの世帯で生活が困窮してくるのではないかと思います。子供や経済力の無い女性や高齢者など、弱者から追い詰められていきます。ぜひ生活を安定させる為の持続可能かつ根本的な対策をお願いしたいです。

- ・自殺など考えない強い人間になる為の教育が必要である。
- ・ゲートキーパーさんを増やす。
- ・産後うつ、育児ノイローゼ対象者、発達障がい傾向のある成人（に支援が必要）。
- ・自分の周りの希死念慮に苛まれている人は愛着障害を抱えています。その問題に大人になって気付く人もいます。子育て世代、保育施設の支援も長い目で見れば自殺対策に繋がるかもしれません。
- ・心の病にならなければ自殺は減るでしょう。
- ・人間関係（職場、家族、友人など）によるストレスを気軽に話せる窓口がほしい。メンタルクリニックの特性など知りたい
- ・発達障害の当事者及び家族で希死念慮がある人達をどう支援できるエキスパートの育成